

～2026年「午年」によせて～

薄井憲二バレエ・コレクション常設展

vol. 104

「馬」と「バレエ」

会期／2025年11月12日(水)～2026年2月23日(月祝)
(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2026年は午年。本展では、薄井憲二バレエ・コレクションの中から「馬」の登場する資料をご紹介します。古今、各国で多種多様に描かれてきた「馬」と「バレエ」のつながりを俯瞰しながら、新年を祝し、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

「ルイ 14 世の騎馬」の切手

『オックスフォード・バレエ・ダンス事典』には「馬のバレエ」の項目があり、「17 世紀、特にフランス、イタリア、オーストリアで大流行した、馬に乗った騎士が演じたバレエ」と記されている。ルイ 14 世の愛称「太陽王」は、14 歳の頃、宮廷バレエ『夜のバレエ』(1653)で「太陽」役を演じたことに由来する。1661 年に王立舞踊アカデミーを設立するなど、バレエの発展に大いに寄与した。



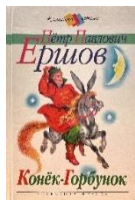
「ボリショイ劇場」のメダル

オペラとバレエの殿堂、モスクワのボリショイ劇場のメダルには、劇場のファサードと、その屋根にある彫刻(4 頭立ての馬車に乗るアポロン)が描かれている。「偉大な」という意味の「ボリショイ」を象徴するような、荘厳な彫刻の細部を堪能できるメダル。



バレエ『せむしの仔馬』(1864)

1864 年 12 月 15 日、サンクトペテルブルクのボリショイ劇場で初演。音楽：チェーザレ・プーニ、振付・台本：アルチュール・サン＝レオン。ピョートル・エルショーフによるロシア民話に基づくバレエで、主人公の少年イワンが不思議な魔法の力を持つせむしの仔馬の助けを得て様々な苦難を乗り越え、美しい姫と結ばれ王となる物語。ロシアの民謡や民族舞踊が盛り込まれたディヴェルティスマンも見所。



バレエ『ペトルーシュカ』(1911)

1911 年 6 月 13 日、パリのシャトレ座で初演。音楽・台本：イーゴリ・ストラヴィンスキー、振付：ミハイル・フォーキン、美術・衣裳・台本：アレクサンドル・ブノワ。1830 年代

のサンクトペテルブルクの謝肉祭を舞台に、老魔術師によって生命を与えられた人形たちの物語が繰り広げられる。広場に置かれた回転木馬や、楽曲「御者と馬丁の踊り」の軽快で迫力ある男性群舞のコサックダンスも魅力。因みに、「ペトルーシュカ」という名の競走馬(1997 年アイルランド生まれ、2000 年カルティエ賞優秀 3 歳牝馬)がおり、その母の名は「バレエシューズ」。



バレエ『パレード』(1917)

1917 年 5 月 18 日、パリのシャトレ座で初演。音楽：エリック・サティ、振付：レオニード・マシーン、台本：ジャン・コクトー、美術・衣裳：パブロ・ピカソ。ビルの谷間の見世物小屋の前で、団員たちが客寄せの芸(パレード)を披露する。ピカソが手掛けた支配人の衣裳は「動くキュビズム」とも称された。2 人のダンサーが着ぐるみに入って演じる「馬」は、無音で踊り笑いを誘ったが、これは当時のサーカスやパントマイムで人気を博していた芸を引用したものでもある。



バレエ『ネプチューンの勝利』(1926)

1926 年 12 月 3 日、ロンドンのライシウム劇場で初演。音楽：ロード・バーナーズ、振付：ジョージ・バランシン、台本：サシェヴェレル・シットウェル、美術：アレクサンドル・シェルヴァシーゼ公爵、衣裳：ペドロ・プルーナ。「イギリス風パントマイム」と銘打たれ、ロンドンを舞台に、妖精の国と現代が不思議な望遠鏡でつながっている設定。プログラムの表紙からは、19 世紀ヴィクトリア朝時代に活躍したジョージ・クルックシャンクらの大衆的な版画を拡大して描かれたという舞台美術の雰囲気がかがえ、服飾店「ドレコール」の広告にも、最新のファッションを身にまとって乗馬する優雅な婦人像が描かれている。



出展資料

- ◆ STBL-28 切手/ルイ 14 世の騎馬/フランス/1978 年
- ◆ ME-14 メダル/ボリショイ劇場/ロシア/1994 年
- ◆ BK-997pie 書籍/『せむしの仔馬』/ロシア/2001 年
- ◆ PRBRHP-167 バレエ・リュスハウスプログラム/イタリア：コスタンツィ劇場/1921 年/『ペトルーシュカ』
- ◆ PRBROF-17 バレエ・リュス公式プログラム/フランス：シャンゼリゼ劇場/1920 年/『パレード』
- ◆ STTR-05 切手/舞台芸術の歴史的出来事/スコットランド/1982 年
- ◆ PRBROF-31 バレエ・リュス公式プログラム/フランス：サラ・ベルナール劇場/1927 年/『ネプチューンの勝利』



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用